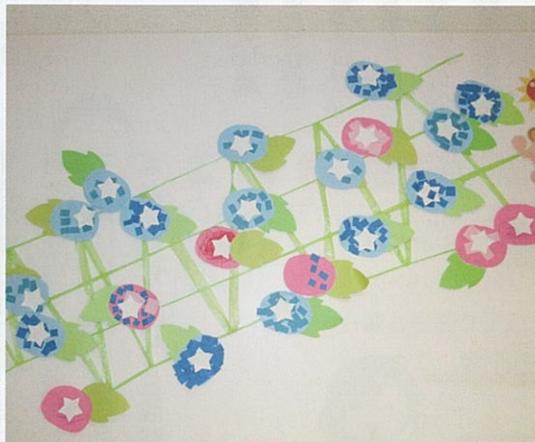
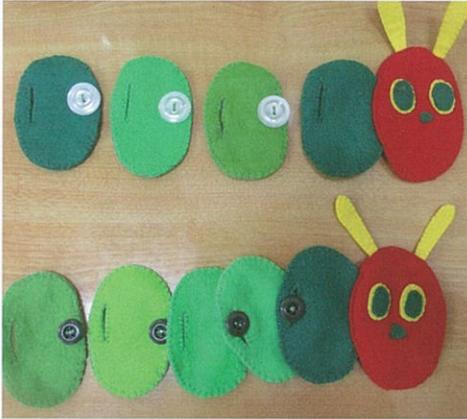


# ふれんど

2021  
第51号

【ひろがれ、かさなれ、むさしののわ】



特集

子育て支援の  
多様化を目指して

●トピックス

フクシを知ろう！なんでもセミナー

●食を通じて地域とつながる

新しいトレーニング

●えすふれっそスペシャル

一人ひとりを知ることの大切さ

大矢 晃子

ご利用者と共に成長する毎日

渡邊 こづえ

お饅頭まんじゅうから感じた幸せと気づき

川澄 奈緒

ご利用者の意向や希望を受け止める

馬場 泉

私にできる支援とは

山田 祐里奈

●福々刻々

学んでより良いチームづくりを

# 子育て支援の多様化を目指して

今年度、社会福祉法人武蔵野のこども部門は、子育て支援施設であるみどりのこども館に加え、桜堤ケアハウスで放課後等デイサービス・ハビットサテライト事業が始まり、子育て支援の幅が1つ広がりました。どのご家庭も武蔵野市という地域社会の中で安心して子育てができるように……。そうした思いを込めた支援の現場を、ぶれっそを通して少し覗いてみませんか？

## みどりのこども館って

### どんなところ？

みどりのこども館は、都立中央公園にほど近い都営住宅の1階にあります。館内には、武蔵野市児童発達支援センターと、おもちゃのぐるりん（運営：武蔵野市子ども協会）が併設されています。

児童発達支援センターには、心身の発達の遅れなどから集団生活に支援を必要としている3歳児〜就学前までのお子さんが通う通園部ウィズと、発達に関する相談を行っている相談部ハビットがあります。ぐるりんは、就学前までの親子の遊び場で、手作りおもちゃの会やおもちゃの貸し出し、おもちゃ病院などを実施しています。3事業合同のお祭り（あそぼこデー）を開催したり、通園児がぐるりんのおもちゃを借りたり遊びに行くなどの交流、らびっ

と広場（ハビット親子通園利用者対象）、保護者向け講座（ハビット×ぐるりん）、ウィズ・ハビット職員の合同研修などで、地域の子育て支援施設として互いに連携を図っています。

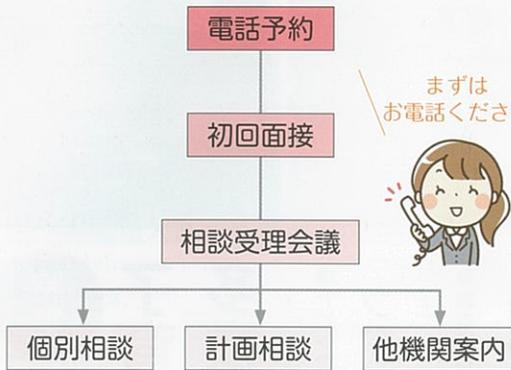
## 相談部ハビットって

### 何をしているの？

相談部ハビットでは、0歳〜18歳までのお子さんの発達に関する心配ごとについて、ご相談をお受けしています（武蔵野市民対象）。お子さんの運動、ことば、行動など気がかりなことについてお伺いし、経過を見ていく中で、お子さんに合った関わり方や環境について、ご家族と一緒に考えて行きます（療育相談）。療育（Ⅱ発達支援）に通うことが望ましいとなった場合は、療育先（福祉・医療・自費サービス）について情報提供しています。児童発達支援事業・放課

後等デイサービスといった児童福祉サービスを利用する場合には、計画相談支援と行ってケアプランを作成する事業も行っています。また、保育所や幼稚園・学校など地域の子育て支援施設の職員に向けて療育的視点から助言を行う施設訪問事業も行っています。

## 相談の流れ



## 通園部ウィズって何をしているの？

通園部ウィズは、発達に気がかりなことがある就学前のお子さんを対象とした「児童発達支援」事業を実施しています。

私たちは『生きていく力の土台を育む』という理念で、

● 楽しく遊ぶ経験から能動的な活動を引き出すこと

● お友だちや職員との関わりを通じて社会性が引き出されるようにすること

● 毎日の積み重ねの中から基本的な生活習慣を身につけていくことを大切にしています。

利用の対象は3歳〜5歳児までで、定員は1日20名です。専任の職員は、児童発達支援管理責任者、保育士・児童指導員、看護師などです。保育士や幼稚園教諭の資格をもつ保育ス



## 特集 ● 子育て支援の多様化を目指して

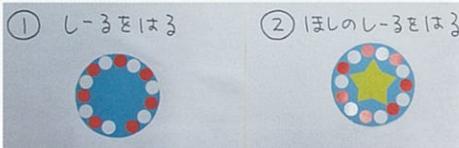
わかりやすく  
順番待ち



なかまを分けよう



食具の練習



絵で見て、自分で  
シール貼り

### 保護者からの声

- ❖ 活動の部屋、準備の部屋と取り組む内容ごとに部屋が分かれているので、子どもにとって気持ちの切り替えがしやすいと思います。
- ❖ 職員の目が行き届いており、安心できます。
- ❖ 連絡帳が毎日ていねいに書かれていて、子どもの様子を知ることができます。
- ❖ 電話をもらったり、こまめに気にかけてもらえていると思います。
- ❖ 子ども一人ひとりに合わせた必要な支援を支援計画に沿って行ってくれています。「令和元年度保護者等アンケート集計結果」より抜粋



### こども部門が目指すもの

私たちは、児童発達支援センター内（ウィズ・ハビット）や拠点間（みどりのこども館と桜堤ケアハウス内児童事業）の連携を強めて、専門的で質の高い支援を提供します。また、すべての子どもが自分らしく生きることのできる社会、家庭状況に合わせた多様な子育てのできる社会の実現を目指していきたくと思っています。

スタッフを中心に、個や集団に応じた活動プログラムを展開しています。通園における療育のイメージとしては、特別な訓練等をしているのではないかと思う方もいらっしゃるかもしれませんが、私たちの毎日の活動内容は、幼稚園や保育園で行われている運動や音楽、制作などの遊びと大きく変わりません。その中で、相談部ハビットの理学療法士や作業療法士との連携や、発達の特性等による知識などから得た『保育以外の専門的な視点』を取り入れています。幼児期に生きていく力の土台を育

むために大切なこと（自己の表現・人とのやりとり・身体や手指の使い方など）は、遊びの中で学んでいくことがほとんどです。お子さんたち一人ひとりが、ていねいな配慮が受けられるような遊びの場の環境設定を心がけていきます。毎日の通園療育（保育）は、保育スタッフたちの工夫やアイデアのかたまりです。ウィズで過ごす毎日が、お子さんたちにとって楽しくわかりやすい生活となるように、日々励んでいます。

### Information

武蔵野市児童発達支援センター みどりのこども館  
〒180-0012 東京都武蔵野市緑町2丁目6番8号  
武蔵野緑町2丁目第3アパート1階  
通園部ウィズ： 0422-54-5162  
相談部ハビット：0422-55-8510

→地図  
P.8-A

#### □ハビットブログ

ハビット事業のご案内やお知らせ、みどりのこども館の催しなどの情報を発信します。

#### □ハビットブログ\*ぷらす

より詳しく療育や特別支援の情報を知りたい方におすすめです。（ハビットブログ版の内容を含みます）



# 放課後等デイサービスパレットが始まりました！

放課後等デイサービス  
って何？

パレットってどんなところ？

よさそうです。

放課後等デイサービスは、小学生

から高校生の障害のあるお子さんが、

放課後や夏休みなどの長期休暇中に

通う場所です。学校とは異なる時間、

空間、人、体験等を通じて生活能力

の向上や社会との交流を図るととも

に、保護者の子育てをするうえで

負担を軽減することを目的としてい

ます。

「武蔵野市放課後等デイサービス

パレット」は身体障害児または医療

的な生活援助や配慮を必要としてい

る子どもを対象とし、両親が就労し

ていることが利用の条件です。

パレットは高齢者が住む施設の一

角を使います。活動を進めていくな

かで交流の場を設けていきたいと考

えています。周辺は春になると桜が

咲き、玉川上水沿いの散歩が気持ち

性にに応じて次の4点を主として活動

していきます。

● 日常の基本動作の習得や生活能

力の向上を目指す

● 音楽や造形等の表現を通して豊

かな感性を培う

● 地域の中で社会経験の幅を広げ

る

● 好きな遊びやリラックス方法な

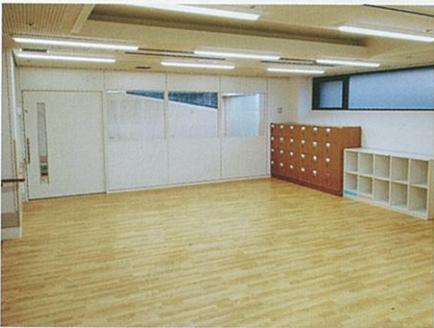
ど、個々に合わせた余暇活動を

提供する

始まったばかりの慣れない場での



ここからパレットの1日が始まります



広い部屋でのびのびと遊びます



遊びの他にもおやつや宿題も行います

## Information

武蔵野市放課後等デイサービス パレット

0422-36-5127

相談部ハビットサテライト

※サテライトでの相談を希望される場合は、みどりのこども館相談部ハビットまでお問い合わせください。

武蔵野市桜堤ケアハウス内

〒180-0021 東京都武蔵野市桜堤  
1丁目9番9号

→地図  
P.8-B



生活になりますが、まずは子どもたちが安全に過ごせるよう配慮し、友だちや職員と楽しく過ごし、安心して通える場を目指していきます。

# opics

●トピックス

## フクシを知ろう！ なんでもセミナー

→地図 P.8-A,C

昨年9月、みどりのこども館・副館長で公認心理師の武藤友佳と、特別養護老人ホームゆとりえ・主任 浜野早彩の2名が武蔵野市内の中学校で出前授業を行いました。これは東京都福祉人材センター主催「フクシを知ろう！なんでもセミナー」事業の一環です。福祉の現場で働く専門職が仕事の魅力語るこの講座は、都内の中学・高校の総合的な学習やキャリア教育などに活用されています。

講座ではこころのはたらき(心理学)や、特養での看取りの経験などのテーマを通して、仕事のやりがいや大切にしていることなどが語られました。受講したある生徒からは「他人の困っていることをスタッフ全員で悩み、サポートするのは大変で難しいと思うけど、かっこいいなと思った」と感想が聞かれました。

少子高齢社会が進行する私たちの国では、福祉人材の養成・確保が重要課

題となっています。たとえ職業として福祉業界を選ばなかったとしても、長い人生のなかで誰もが「福祉」と関係することになります。未来を担う若い世代にとって、今回の講座が福祉への理解を深めるきっかけとなれば幸いです。そして、将来若い世代が福祉業界へ足をふみ入れたときに「やりがい」を感じられる職場であるためにも、福祉に従事している私たちは魅力を発信し続けたいと思います。

(本部事務局 石田 真緒)



生徒さんは熱心に講座に参加していました

食を通じて  
地域とつながる

新しい  
トレーニング

→地図 P.8-D

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、やさしい食堂 七福は1か月間休業しました。その後の再オープンでも、どのような対策をしたらお客様もスタッフも安心できるか、試行錯誤してきました。そこで「外食は心配だけど七福のごはんが食べたい」という声にお応えして、お弁当販売を始めました。

そんな中、武蔵野市役所 子ども家庭部様のイベントに協力させていただきました。このイベントは職員の皆さんの健康維持・増進のためのもので、昨年度までは七福の店内で開催していました。今年は検討を重ねた末、講義に替えて解説DVDを作成し、講義資料や体に良いレシピを配布して、そ



弁当製造の様子

れぞれの部署で密を避けながら視聴していただきました。料理は、お弁当スタイルでお届けしました。

この1年は、誰もがさまざまな変化や新しい生活を試されています。「いつも通り」が難しい今、どのような方法であれば形にできるかを柔らかく捉え直すヒントをたくさんもらう機会になり、七福としても私個人としても新しい筋肉がついたと感じています。

(武蔵野福祉作業所 柴田 美季)

# えすぷれっそ Special

ふれっそ49号（2020年8月発行）では今年度入職した職員の中から5名の新人職員を紹介しました。それぞれが各現場で必要な知識やスキルを身につけ、実際にご利用者と関わるなかで試行錯誤しながら日々実践を積み重ねています。今号ではその5名のフレッシュな想いをお届けします！



半年後研修はリモートで行われました。画面越しでしたが同期入社仲間たちと学びあう貴重な時間となりました。

## ご利用者の意向や希望を受け止める

ティセンター山びこ 馬場 泉

→地図 P.8-E

山びこの活動のひとつに、ウォーキングがあります。主に公園に行くことが多く、道中ではご利用者のさまざまな姿がみられます。楽しみにスキップする人、お話しされる人、一人ひとり違う楽しみ方で参加されています。入職したてでお互いにぎこちなかった春、炎天下で木陰を探した夏、枯葉が積もり肌寒い風に吹かれた秋、ウォーキングを通して流れる季節を感じてきました。一緒に歩いていると、ご利用者からの発信が増えてきている印象を受けます。



中央公園を散策中

普段関わっているご利用者の多くは言葉ではなく、仕草や単語を使って意向や希望を伝えます。職員はそれを汲み取り対応しています。しかしながら職員によって発信の受け止め方や解釈が異なることが多々あります。職員それぞれが違う価値観をもっているため、支援の方向を同じにするのは簡単なことではありません。だからこそ話し合いや意見を聞くことで自分自身の気づきを深め、学ぶことが大切だと感じました。お互いの解釈をすり合わせてご利用者の意向や希望に沿えるよう、よりよい支援へと繋がっていききたいです。

## ご利用者と共に成長する毎日

武蔵野福祉作業所 渡邊 こずえ

→地図 P.8-F

他業種から福祉分野へと転職し、武蔵野福祉作業所へ配属となってから約半年が経ちました。

作業所は、ご利用者が働くことを支援する場です。私が担当するグループは、お菓子詰めや箱折り等の仕事を中心です。お客様から受注した内容によって毎日の仕事が変わるため、どうしても全体の流れが上手くいくかを考えて仕事を提供したり、ご利用者の相談を聞き、どう解決していけばよいのか一緒に考えていくことが私の業務です。忙しい毎日の中で、ご利用者に声をかけてもらえること、信頼関係を築いていけることが楽しく、活力になっています。

人は日々の積み重ねの中で、成長を続けていきます。それは私もご利用者も同じです。半年前よりもできる仕事が増えたご利用者の姿があり、また私も身も業務の中で学びが多くあります。ご利用者と職員がともに成長しながら、前に進んでいける環境が作業所にはあります。

これからもご利用者と一緒に学びあい、日々の小さな気づきを大切に成長していきたいと思います。



コーヒースティック詰め作業の検品風景

## お饅頭から感じた幸せと気づき

ゆとりえ（特養ホーム） 川澄 奈緒

→地図  
P.8-C

世界中でコロナウイルスが流行している中、4月から新人職員としてゆとりえに入職しました。

入職後は、介護の基本的なことを覚えるのに精一杯で、あっという間に月日が経ちました。この半年間、ご利用者の方々と余裕をもってコミュニケーションをとれていなかったため、これからは先輩方のように日々の関わりを大切に、変化に気づける職員になりたいです。

私が担当させていただいているご利用者は甘い物が好きで、ご家族からの差入れのお饅頭をお出しすると、満面の笑顔で召し上がります。この表情を見て、これまでの生活を想像でき、ご家族と一緒にご利用者を支えていると感じられ、私自身も楽しみの時間になっています。

これまでの生活で大切にされてきた時間を、ゆとりえでも過ごして頂けるような場を一緒に作って

いただきたいと思います。



おやつの前に

## 一人ひとりを知ることの大切さ

わくらす武蔵野（入所施設） 大矢 晃子

→地図  
P.8-G

わくらす武蔵野で働き始め、半年が過ぎました。この間、ご利用者との関わりを通じて新たに知ることや学ぶことが多くありました。

何より、ご利用者について知ることの大切さを学びました。例えば余暇活動に出かける際、前もって日程や流れをお伝えしたほうが混乱することなく楽しめるご利用者もいれば、直前にお伝えしたほうが、楽しみや不安な気持ちが高まりすぎず、参加しやすいご利用者もいます。

伝え方も口頭で伝える他に、紙に書いたり、図を用いたり、さまざまな方法があります。それぞれのご利用者を知り、その方に合った伝え方や環境設定をすることで、楽しく安心して過ごしていただけるのだと学ぶことができました。

まだ戸惑う場面もありますが、ご利用者と時間を共有する中で「通じ合えたかも」と思える瞬間も増

えてきました。

今後一人ひとりに寄り添う姿勢を大切に、いきいき過ごしていただけを支援を心がけたいです。



秋晴れの光が丘公園にて

## 私にできる支援とは

リエゾン RENG A（グループホーム） 山田 祐里奈

→地図  
P.8-H

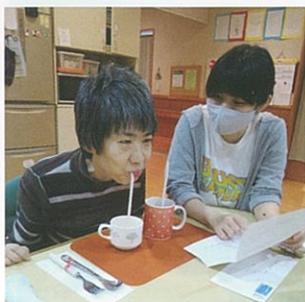
私が担当しているご利用者は、物事を自分で考えて決めたいという思いがあります。しかし、これまで決断してきた経験が少ないため、決断するための過程を一緒に考え、支えていく必要があります。

そんな中、今まで毎週末帰宅していた所、ご家族の事情で毎月1回 RENG A で週末を過ごすことになりました。そこで、来月の各週末をどのように過ごすか、ご本人が決められるよう支援します。

「こういう理由でこうしたい」「こうしてはどうかな？」といった相談をしながら、決めていきます。ご自分で考え決めていくことで、少しずつ自信がついていく様子があり、私も嬉しく感じています。

最近帰宅予定の相談だけでなく、その他にやってみたい事も積極的に伝えてくださるようになりました。「ご利用者のやりたい！」ことを具体化するために、一緒に考え悩み、ご利用者がいきいきと暮らしていけるよう

な支援を目指したいと思えます。



夕方のプレイクタイム

